

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。
 ○○語(母語)でも書いたことがありますか。
 今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題について話し合い、わかったかどうかを確認する。



日記を書いたことがありますか。

・「日記を書いたことがある」と答えた子には「毎日書きますか」と聞く。



「楽しかった日」のことを教えてください。何をしましたか。
 見たこと、聞いたこともたくさん書いてください。いいですか。

③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

・巻末資料の用紙から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。はじめに絵を描いてもいいですよ。

・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

・なかなか書き出せないで困っている場合は、つぎのような対話(1または2)をして励ます。

(例) < 1. 課題について詳しく話し合う >



何をしましたか。どこでしましたか。だれとしましたか。楽しかったですか
 そこで、何をみましたか。どうでしたか。
 だれが、何と言いましたか。

< 誘導・はげまし >



書くことがたくさん見つかりましたね。それを書いてください。

< 2. 子どもが描いた絵を手がかりにして話し合う >



先に絵を描いてみましょう。
 (絵について) これは何をしているところですか。これは何ですか。

< 誘導・はげまし >



じゃあ今度は文を書いてみましょう。がんばってください。

書いたあとで ...

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
また、関連質問をして話題を膨らませる。★書き直させる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
この作文の面白いところはどこですか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。「楽しかった日」のことがよくわかりました。
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょうね。

メモ:

日記を書く習慣のある子、日記の指導を受けている子にとっては、単なる日記だと日常的な課題になってしまうので、「明日したいこと」を書くように仕向けてもよい。
低学年を対象に行う場合、時間設定の必要性は低い。DLA〈話す〉や〈読む〉とセットで実施する場合など、書いたあとの対話時間が確保できるよう配慮する。